

ネイチャー・ウォーク

平成 27 年 6 月号

2015. 6. 21 発行

(通巻第 258 号)

ECO  SAITAMA 公益財団法人 埼玉県生態系保護協会

：部会：自然を歩く会

■先月のネイチャーウォーク

太田・自然と歴史探訪

(東武伊勢崎線 太田駅)



風薫る 5 月のネイチャーウォークは、上州・太田へ遠征でした。

名城とうたわれた金山城を目指して、ちょっとした山登りがあるコースでした。写真は駅前で踊っているわけではなく、準備運動ですよ！

準備万端、27 名で出発です。

最初の目的地は、上毛かるたの読み札「太田金山子育呑龍」で、群馬で育った人ならだれでも知っている大光院。子育て信仰があります。お参りもそこそこに、ハルゼミの声が響く裏の登山道に入ります。





戦国期に難攻不落を誇った金山城は、天正 18（1590）年に廃城。平成の世に復元された大手虎口、大変迫力がありました。

ところで、金山城の城主であった岩松家は、江戸時代に徳川家に仕えることになりすが、貧乏に苦しみます。そこで金策のために内職で始めたネコの絵が、ネズミ除けのお守りとして大ヒット。そのため、猫絵の殿様として知られていたそうです。



登った人だけのごほうび、展望台からは太田市内が一望できます。景色を楽しみながら昼食です。昼食後は恒例の Walk 出現認定式。今回は一名が認定されました！



山頂にある「金山の大ケヤキ」の前で記念撮影。このケヤキは樹齢 800 年といわれています。金山城の興亡を見て来たのでしょうか。



モダンな建物のガイダンス施設では、金山城の歴史が映画や模型でわかりやすく紹介されていました。



アカマツ林は江戸幕府への献上松茸の産地として保全されてきたそうです。秋に来れば松茸が生えていたかも？



山を下り、太田駅に戻ってきました。昔は金山城の城下町、今はスバル（富士重工業）の企業城下町である太田とお別れです。駅前の銅像は新田義貞公と誰だろう？と話題になりましたが、義貞さんの弟で、義貞さんのNo.2として活躍した脇屋義助さんだということでした。

皆さんお疲れ様でした。